

支部例会会長からのお礼のご挨拶

2024年5月25日（土）に岐阜薬科大学との共催で、岐阜薬科大学本部キャンパスにて「第88回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム」を開催致しました。5年ぶりの現地開催になりましたが、多くの方々に足を運んでいただき、参加者180名という大盛況の例会・シンポジウムとなりました。

新型コロナウイルスの状況は落ち着きをみせ、社会は以前の姿を取り戻しつつあります。しかし、新型コロナウイルスが完全に消え去ったわけではなく、人類はこれからも共存していくこととなります。今後の未曾有の事態に対応するには、我々研究者が分野を超えて課題に向き合い、解決策を導き出す必要があります。このような背景をもとに、今回のシンポジウムでは、「異分野融合による生化学の新展開～共存と排他～」をテーマとして、藤田恭之先生（京都大学）と長谷耕二先生（慶應義塾大学）をお招き致しました。藤田先生には、「正常上皮細胞と変異細胞間に生じる細胞競合」という演題で、哺乳類培養細胞系やマウスモデルを用いた細胞競合現象についてご講演いただきました。また、長谷先生には、「腸内共生と疾患制御」という演題で、母体腸内細菌が胎児の発達や生後の疾患感受性に及ぼす影響についてご講演いただきました。それぞれ55分間、ご講演と質問に答えていただきました。また、一般演題として81演題のポスターが登録され、全発表者による1分間のフラッシュトークを行いました。その後、ポスター前で50分間の質疑応答時間を設け、学生、若手研究者、ベテラン研究者と熱い議論が交わされました。ポスター発表では、生化学会会員とシンポジストの先生に審査をお願いし、投票によって選ばれた次の8名の発表者に、中部支部奨励賞が授与されました（敬称略）。P-11-S 水上優子（岐阜薬科大学）、P-13-S 林 莉々（岐阜薬科大学）、P-30-S 近間 琴海（岐阜大学）、P-52-S 簗 祥太（静岡県立大学）、P-55-S 又吉 克樹（静岡県立大学）、P-59-S 王 笑桐（名古屋工業大学）、P-61-S 加藤 真生（名古屋市立大学）、P-78-S 清 日香（名古屋大学）。選出された方々におかれましては、おめでとうございます。

総会におきましては、次期支部例会会長候補として、服部光治先生（名古屋市立大学薬学部）を推薦し、承認されました。次いで支部より、令和5年度決算と令和6年度予算の会計報告、事業報告、令和5年度中部支部支部長賞、ならびに次期支部幹事の投票結果が報告され、服部光治先生より第89回中部支部例会・シンポジウムの開催概要についてご案内いただきました。

この場をお借りして、ご参加いただいた方々に改めて御礼申し上げます。また、日本生化学会中部支部例会・シンポジウムの開催にご協力いただきました方々に感謝申し上げます。皆様のご研究の益々のご発展を祈念致しまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。

第88回日本生化学会中部支部例会会長
岐阜薬科大学薬学部
五十里 彰